

水稻の生育状況と今後の管理対策（第1号）

平成29年5月31日
新潟県農林水産部

〔要約〕

5月30日現在の水稻の生育状況

- ◎ 田植え後の気温が平年より高く推移しており、生育は良好で、茎数は指標値（生育のめやす）に比べて、コシヒカリ・こしいぶきとも「多い」状況となっています。

今後の管理対策

- ◎ 1か月予報によれば、平均気温は高い確率が60%と予報されていることから、茎の発生が旺盛になり、平年より早く中干し適期に達する可能性があります。
中干し^{なかほ}*1は、田植え後30日がめやすですが、生育状況を見て時期を逸しないよう開始しましょう。特に、連休植えのほ場では、速やかに生育状況を確認し中干しが遅れないよう注意しましょう。
- ◎ 田のワキ^{わき}*2の発生が多いほ場では夜間落水を行い、根の健全化に努めましょう。

*1 中干し：田の水を落として、一時的に田を乾かすこと。

*2 田のワキ：稲わらなどが分解する際、ガスが発生すること。

[5月30日現在の生育]

- コシヒカリは、県平均では指標値（理想的な生育めやす）に比べ、草丈は「やや長い」、茎数は「多い」、葉数の進みは「やや早い」状況です。
- こしいぶきは、県平均では指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「多い」、葉数の進みは「早い」状況です。

[今後の生育見込み]

- 5月25日発表の1か月予報（5月27日から6月26日までの天候見通し）によると、平均気温は高い確率が60%で、降水量は平年並または少ない確率がともに40%です。
- そのため、急激に茎数が増加し、平年より早く中干し適期に達する可能性があります。

[当面の管理対策]

- 中干し・溝切り^{みぞきり}
コシヒカリの中干しの適期は、茎数が目標穂数の7～8割を確保した時期（田植後30日がめやす）となります。なお、生育が過剰になりやすいほ場では、より早めの6～7割の時期（田植後25日がめやす）となります。生育が進んでいるので、遅れずに中干しを開始しましょう。
また、溝切りも遅れないよう注意しましょう。
- 水管理
田のワキの発生が多いほ場では夜間落水を行い、根腐れや生育停滞を防止しましょう。

◎ 今後の管理対策発行予定日

6月9日・21日・30日、7月11日・21日・26日、8月1日・22日、9月12日

〔補足資料〕

1 コシヒカリおよびこしいぶきの生育状況

1 頁の「水稻生育状況と今後の管理対策」の生育状況は、下記の生育調査結果及び他の調査結果を含めた生育状況です。

(1) 農業普及指導センターの「生育調査ほ」の結果は以下のとおりです。

- コシヒカリは指標値（理想的な生育めやす）に比べ、草丈は長く、茎数は多く、葉数の進みは並み～やや早くなっている（表1・2）。
- こしいぶきは指標値に比べ、草丈は並み、茎数は多い、葉数の進みは早い（表3）。

表1 コシヒカリの生育調査ほ調査結果

| 項目 | 5/30 平均値 | 指標値 (県平均) | 指標値 との比較 | 特記事項 |
|----|----------------------|---------------------|-------------|---|
| 草丈 | 26 cm | 23 cm | 113% | ・ 平年比 113%、H28 年比 96% ・ 指標値に比べ長い。 |
| 茎数 | 106 本/m ² | 90 本/m ² | 118% | ・ 平年比 125%、H28 年比 92% ・ 指標値に比べ多い。 |
| 葉数 | 5.3 葉 | 4.8 葉 | +0.5 葉 | ・ 平年差 +0.5、H28 年差 -0.2 ・ 指標値に比べやや早い。 |

注1：県内 15 か所に設置した生育調査ほの平均、田植え 5 月 11 日、栽植密度 57 株/坪

表2 品質安定化対策実証ほ調査結果（コシヒカリ）

| 項目 | 5/30 平均値 | 指標値 (県平均) | 指標値 との比較 | 特記事項 |
|----|----------------------|---------------------|-------------|------------------------------|
| 草丈 | 26 cm | 23 cm | 113% | ・ H28 年比 104% ・ 指標値に比べ長い。 |
| 茎数 | 107 本/m ² | 90 本/m ² | 119% | ・ H28 年比 91% ・ 指標値に比べ多い。 |
| 葉数 | 5.1 葉 | 4.8 葉 | +0.3 葉 | ・ H28 年差 -0.1 ・ 指標値並み。 |

注1：県内 14 か所の平均、田植え 5 月 12 日、栽植密度 58 株/坪

注2：一部地域では、調査ほ設置場所の違いから、品質安定化対策実証ほの指標値が生育調査ほの指標値と異なる場合がある。

表3 こしいぶきの生育調査ほ調査結果

| 項目 | 5/30 平均値 | 指標値 (県平均) | 指標値 との比較 | 特記事項 |
|----|----------------------|----------------------|-------------|--------------------------------------|
| 草丈 | 22 cm | 22 cm | 100% | ・ 平年比 100%、H28 年比 92% ・ 指標値並み。 |
| 茎数 | 125 本/m ² | 108 本/m ² | 116% | ・ 平年比 118%、H28 年比 79% ・ 指標値に比べ多い。 |
| 葉数 | 5.7 葉 | 5.0 葉 | +0.7 葉 | ・ 平年差+0.5、H28 年差-0.4 ・ 指標値に比べ早い。 |

注1：県内 14 か所に設置した生育調査ほの平均、田植え 5 月 9 日、栽植密度 60 株/坪

(2) 作物研究センター調査ほ

- 5 月 30 日調査のコシヒカリの生育は、草丈は前年より短く、平年並み。茎数は前年並みで、平年より多い。葉数の進みは前年、平年並み。
- こしいぶきの生育は、草丈は前年より短く、平年並み。茎数は前年より少なく、平年より多い。葉数の進みは前年、平年並み。
- 新之助の生育は、草丈は前年より短い。茎数は前年より少ない。葉数の進みは前年並み。
- コシヒカリ、こしいぶきの活着は早く、過去 10 年で最も旺盛な前年に次いで分げつの発生が多くなっている。新之助はほ場のワキの発生が多く、生育が停滞している。

表4 コシヒカリの生育(調査日：5 月 30 日)

| | 本年値 | 前年比・差 | 平年比・差 |
|----|----------------------|-------|-------|
| 草丈 | 25cm | 89% | 104% |
| 茎数 | 142 本/m ² | 98% | 156% |
| 葉数 | 5.4 | - 0.3 | + 0.3 |

注)有機入り肥料栽培。田植え 5 月 11 日、栽植密度は 18.2 株/m²。

平年値は平 24~28 は有機入り肥料栽培、平 19~23 は化成肥料栽培によるデータ。

表5 こしいぶきの生育(調査日：5 月 30 日)

| | 本年値 | 前年比・差 | 平年比・差 |
|----|----------------------|-------|-------|
| 草丈 | 21cm | 89% | 101% |
| 茎数 | 146 本/m ² | 83% | 148% |
| 葉数 | 5.5 | - 0.3 | + 0.3 |

注)化成肥料栽培。田植え 5 月 11 日、栽植密度は 19.6 株/m²

2 地力窒素の発現状況

- 移植日からの日平均地温は平年より約 1.7℃高い。期間窒素発現は化学肥料区、堆肥区ともに平年より多い（表 6）。

表 6 地力窒素の発現状況（農総研基盤研究部調査） (mgN/100g)

| 調査日 | | 5月10日① | 5月29日② | 地力窒素発現量 ^{※1} (③=②-①) |
|-------|----|--------|--------|----------------------------------|
| 化学肥料区 | 本年 | 3.1 | 3.9 | 0.7 |
| | 前年 | 1.8 | 2.7 | 0.9 |
| | 平年 | 2.2 | 2.8 | 0.6 |
| 堆肥施用区 | 本年 | 3.5 | 4.9 | 1.4 |
| | 前年 | 2.3 | 3.2 | 1.0 |
| | 平年 | 2.6 | 3.4 | 0.8 |

※1 小数点3ケタ目の四捨五入の関係で、表中の数値の引き算と合わない場合がある。

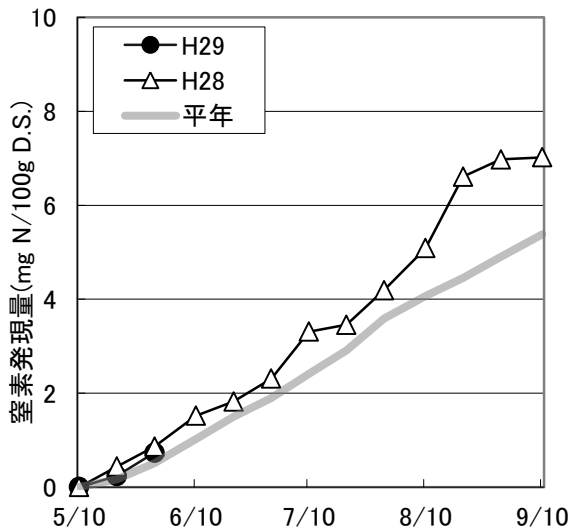


図1 地力窒素の発現推移
(化肥区；初期値を0とした)

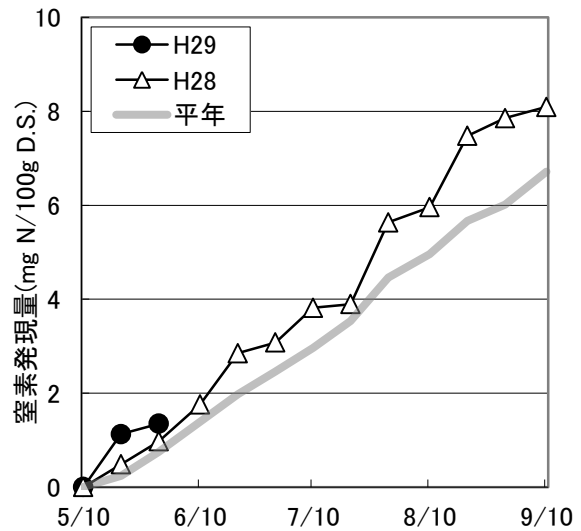


図2 地力窒素の発現推移
(堆肥区；初期値を0とした)

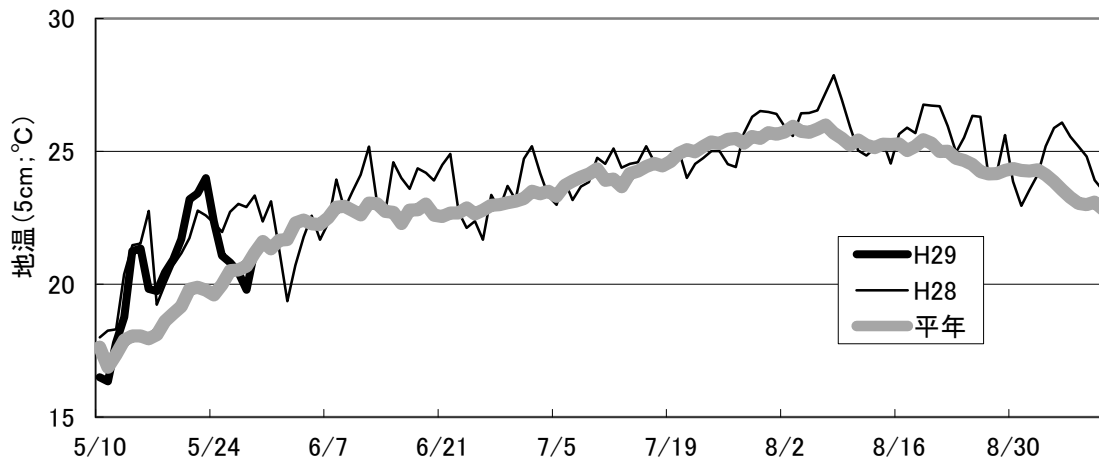


図3 地温 (5cm) の推移